

屋外空間整備における課題の構造とその特性

A Study on the Structure and Characteristics of the Subjects of Outdoor Space Design

澤田 俊明* 松永 昭博** 山中 英生*** 水口 裕之****
By Toshiaki SAWADA Akihiro MATSUNAGA Hideo YAMANAKA Hiroyuki MIZUKUCHI

1. はじめに

人々の身近な屋外空間のデザインは、公共空間の質的向上を高めるためその体系化が望まれている。本研究では、既往の研究での指摘及び実務者ワークショップ（以下WSと略記）から主として屋外空間の整備課題を抽出し、それをもとに課題の構造化を行った。そして、空間整備課題の構造の枠組みより、現時点での有識者及び実務者の指摘する空間整備課題の特徴について分析を行う。本研究の検討フローを図1に示す。

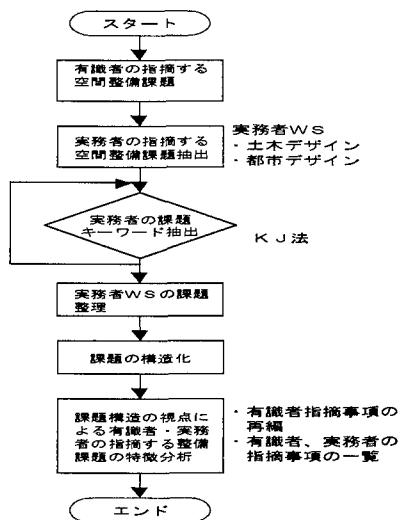


図1 検討フロー

【キーワード】: 空間整備・設計、景観

- * 正会員 工博 建設材料試験所(770-0046 徳島市鮎喰町1-57、TEL 0886-32-0111、FAX 0886-31-5438)
** 正会員 建設材料試験所(770-0046 徳島市鮎喰町1-57、TEL 0886-32-0111、FAX 0886-31-5438)
*** 正会員 工博 徳島大学工学部建設工学科(770-8506 徳島市南常三島町2-1、TEL 0886-56-7350、FAX 0886-56-7341)
**** フェロー 工博 徳島大学工学部建設工学科(770-8506 徳島市南常三島町2-1、TEL 0886-56-7349、FAX 0886-56-7351)

2. 空間整備課題の抽出

(1) 空間整備課題に対する有識者の指摘の概要

空間整備に対する有識者の指摘は、土木デザイン・都市デザインの中から表1に示す書籍等を取りあげた。指摘内容は割愛する。

表1 有識者の指摘

	有識者	書籍・講演
土木デザイン	窪田陽一 ¹	『日本の都市デザイン'85~'95、一変貌する土木デザイン』(書籍)
	中村良夫 ²	『景観づくりを考える、一これからの土木景観』(書籍)
	篠原 修 ³	『景観づくりを考える、一土木景観設計の原則』(書籍)
都市デザイン	鳴海邦碩 ⁴	『都市環境デザイン 13人が語る理論と実践、一都市環境をデザインする』(書籍)
	長島孝一 ⁵	都市環境デザイン会議・国際セミナー: 外国人の見た関西の都市環境 (講演)

(2) 空間整備課題に対する実務者WSの概要

本研究で取り上げた実務者WSは、著者らが直接関与した土木デザイン・都市デザインの2つの分野とした。実務者の指摘する課題は、3つの実務者WSから空間整備の課題を収集し、そのキーワードを抽出した。3つの実務者WSの概要を表2に示す。内容は割愛する。

表2 実務者ワークショップの一覧

	名称	日時	参加者	参加者の専門
土木デザイン	「公共土木デザイン研究会・1995年第1回研究会」 ⁶	1995年11月20日	大学5名、行政24名、民間31名、合計60名 実務経験: 初心者~ベテラン	土木主体
	「土木景観を考える会・1996年第1回検討会」 ⁷	1996年10月28日	大学2名、行政2名、民間5名、学生2名、合計11名 実務経験: 10~20年	土木、建築、都市、造園
都市デザイン	「徳島市デザインフォーラム」 ⁸	1994年12月~1996年3月	行政6名、民間13名、合計19名 実務経験: 15~20年	建築10名、土木3名、美術2名、都市・造園・商業各1名

3. 空間整備課題の構造

(1) 空間整備課題の構造

有識者及び実務者 WS により得られた空間整備課題の指摘とキーワードをもとに、表 3 に示す空間整備課題の構造の体系化を行った。空間の整備課題は、デザイン認識・デザイン思想・デザインシステム・デザイン技術・デザイン評価の 5 つに大別した。

表 3 空間整備課題の構造

大区分	中区分	小区分
デザイン認識	●デザイン行為への意識・認識	
	●人材育成・教育	
デザイン思想	●デザイン倫理	デザインの目的／必要性など デザインの存在様式／多様性・総合性・連続性・時間的特性など
	●デザイン要請	地域環境との関係／地域、社会、産業など 人間環境との関係 生物・自然環境との関係
	●デザイン戦略	デザイン方針／デザインコンセプト デザインバランス／経済性・自然環境性・安全性・保健性・利便性・快適性他
デザインシステム	●デザイン組織	行政システム／組織・体制、予算制度、発注形態、事業の特性 行政外システム（住民、企業、専門家他）／組織・体制
	●デザインプロセス	デザインコミュニケーション／情報伝達、意志疎通 参加のデザイン／住民、行政、企業、専門家など デザインの責任性／帰属性・責任・意匠権など
	●制限事項	時間・費用・用地・法令など
デザイン技術	●デザイン要素	材料／自然材料、人工材料 水・土・緑 生物・自然環境 整備対象／河川・道路・街区など 整備手法／多自然型整備など 景観設計技術・造形技術／町並みとの調和、スケール感など 付属施設／照明、フェンスなど その他
	●デザインコントロール	デザイン要素の調整 デザインの規制・誘導、都市計画制度 デザイン指針
デザイン評価	●評価・批評	

(2) 空間整備課題の要素

5 つに大別される空間整備課題は、表 3 の中区分・小区分に示される要素を持つ。以下、これら要素について示す。

(a) デザイン認識

「デザイン認識」の課題は、主として整備する立場の人に関わる課題である。まず、「デザイン行為への意識・認識」が適正になされているか、ということであり、この時のデザイン認識の対象は、空間整備課題における「デザイン思想」・「デザインシステム」・「デザイン技術」である。また、これら適正な認識を得るための「人材育成・教育」もデザイン認識の課題の中に含めてとらえる。

(b) デザイン思想

「デザイン思想」の課題は、空間整備における普遍的要因である「デザイン倫理」・「デザイン要請」とその時々戦略的状況判断による変化的要因である「デザイン戦略」の課題に区分できる。

デザイン倫理は、屋外空間が本来持つべき条件や、人間・生物・自然環境との関わりといった、デザイン行為自体の存在意義を表すものであり、「デザインの目的」・「デザインの存在様式」からなる。デザインの目的は、経済・産業・社会・環境上の地区・地域・国家・地球規模での要請から成る。こうしたデザインの目的や規模に応じて、見た目の「形」は対象とする空間で固有ではあるが、デザインの存在様式としては普遍的な形態を持つ。多様性・総合性・連続性・時間的特性・持続性・循環性などである。

デザイン要請の課題は、整備対象となる屋外空間に存在する地域環境、人間環境、生物・自然環境の課題からなる。本課題は整備される対象空間ごとに異なり、対象空間により要請される課題である。

デザイン戦略の課題は、時代を超えた普遍的なデザイン倫理・デザイン要請を基に、社会・経済・環境情勢を判断し、効果的な空間整備が可能な方向性を的確に探る課題である。

(c) デザインシステム

「デザインシステム」の課題は、「デザイン組織」・「デザインプロセス」・「制限事項」の課題に区分できる。

デザイン組織の課題は、「行政システム」と「行政外システム」の課題に区分できる。行政システムの課題には、縦割り制度などの組織・体制、単年度予算制度、発注制度などが考えられる。また、

生活空間の主役である住民・企業そして空間整備のアドバイザーである専門家等の行政外システムを抜きにしては考えられない。行政外システムの課題としては、組織・体制上の課題、これらを支援する上での公益信託などの財政上・税制上の課題などを有する。

デザインプロセスの課題は「デザインコミュニケーション」・「参加のデザイン」・「デザインの責任性」の3つに分けることができる。縦割り行政組織に大きく影響される現状のわが国の屋外空間は、空間的にも情報的にも、本来、総合的・連続的であるものが細分化・分断化された状態で整備が進められている。デザインコミュニケーションは、このうち、意志疎通及び情報伝達上の課題である。参加のデザインは、住民参加をはじめとした、住民・行政・企業・専門家などの参加のあり方の課題であり、「プロセスのデザイン」・「プログラムのデザイン」・「参加形態のデザイン」⁹⁾の他、「意志決定のデザイン」が重要となる。デザインの責任性は、デザインの帰属性や意匠権に関わる課題である。

制限事項の課題には時間・費用・責任・用地・法令などがある。

(d) デザイン技術

「デザイン技術」の課題は、「デザイン要素」と「デザインコントロール」の課題に区分できる。

デザイン要素の課題は、材料、水・土・緑、生物・自然環境などによる「技術上の課題」の他、河川・道路・公園などの「整備対象の課題」などすべての個別要素にかかわる課題である。

デザインコントロールの課題は、個別要素が集合した場面でのこれらを調整する「デザイン要素の調整」・「デザインの規制・誘導」の他、個別デザインごとの指針を示す「デザイン指針」の課題からなる。

(e) デザイン評価

「デザイン評価」の評価対象は、整備空間へのデザイン行為としての「デザイン認識」・「デザイン思想」・「デザインシステム」・「デザイン技術」を考える。

4. 空間整備課題の特徴分析

(1) 指摘事項の一覧

空間整備課題に関する有識者指摘事項と実務者WSでの指摘事項を、表3の空間整備課題の構造区分により、表4に整理した。

表4 空間整備の課題一覧

大区分	中区分	小区分	有識者の指摘					実務者の指摘		
			窪田の指摘	中村の指摘	篠原の指摘	鳴海の指摘	長島の指摘	公共土木	土木景観	徳島市デザイン
			土木	土木	土木	都市	都市	土木	土木	都市
認識	●デザイン行為への意識・認識	●人材育成・教育	○	○				○	○	
		●デザイン倫理				○	○	○		
思想	●デザイン要請	目的・必要性	○			○	○	○		
		存在様式		○	○	○	○		○	○
		地域				○	○			○
		人				○	○			○
		自然環境								○
システム	●デザイン戦略	方針						○	○	
		バランス					○	○	○	
	●デザイン組織	行政	○	○		○	○	○	○	
		行政外	○			○	○	○	○	
	●デザイン・プロセス	コミュニケーション	○					○	○	
		参加								○
		責任性	○							
技術	●デザイン要素	●制限事項						○	○	
		材料						○	○	○
		水・土・緑							○	
		自然環境							○	
		整備対象		○				○		
		整備手法						○		
		技術			○			○		
	●デザインコントロール	付属施設							○	
		その他						○		
		調整								
評価	●デザイン評価・批評	規制・誘導					○		○	
		指針						○	○	
評価	●デザイン評価・批評		○	○	○			○	○	

(2) 空間整備課題の構造特性による分析

有識者の指摘事項及び実務者の指摘事項を、表4の縦軸すなわち空間整備課題構造の枠組みの視点から分析する。

(a) デザイン認識

デザイン認識の課題は、有識者・実務者とも土木デザイン分野の課題が多い結果となった。土木デザインにおけるデザイン行為への意識・認識では、土木技術者や土木行政における意識不足が指摘され、その結果として、人材育成・教育の必要

性やあり方が指摘された。一方で、人材育成・教育について、鳴海は景観が総合的なものであるとの認識から、広範囲の専門分野をカバーする専門家の育成の必要性を示している。

(b) デザイン思想

デザイン倫理の課題は、土木デザイン及び都市デザインの有識者、都市デザインの実務者からの指摘が多く、一般の土木デザインの実務者からの指摘は少ない。デザイン要請の課題は、取り上げる対象やWSの運営にもよるが、今回調査の土木デザインを扱う有識者・実務者からは指摘がなく、都市デザインを扱う有識者・実務者から多くの指摘がなされた結果となった。

(c) デザインシステム

デザイン組織の課題は、行政システム・行政外システムとも、空間整備の関係者の全般から強く指摘された。デザインプロセス課題のうちデザインコミュニケーションの課題は土木デザインの分野から多く指摘され、参加のデザインの課題は都市デザインの分野の関係者から指摘された。制限事項の課題は、主として土木デザインに関わる実務者から指摘された。

(d) デザイン技術

デザイン技術課題は、その多くが土木デザインに関わる実務者から指摘された。都市デザインに関わる実務者からは、集中的に材料に関する項目の指摘がなされた。デザインコントロール課題のうちデザイン指針は、土木デザインの実務者により指摘された。

(e) デザイン評価

デザイン評価の課題は、有識者・実務者とも土木デザインの関係者から指摘された。

(3) 空間整備課題の関係者特性による分析

有識者の指摘事項及び実務者の指摘事項を表4の横軸すなわち空間整備に関わる関係者の視点から分析する。

有識者のうち土木デザインに関する指摘は、デザイン倫理、デザイン組織・デザインプロセス、デザイン評価に多く見られた。有識者のうち都市デザインに関する指摘は、デザイン倫理・デザイン要請、デザイン組織に多く見られた。

実務者のうち土木デザインに関する指摘は、デザイン戦略の中のデザインバランス、デザインシステムの全般、デザイン技術の全般、デザイン評価に多く見られた。実務者のうち都市デザインに関する指摘は、デザイン倫理・デザイン要請、デザインプロセス、デザイン要素のうち材料に関して多く見られた。

5. おわりに

本研究では、土木デザインと都市デザインの有識者及び実務者WSより屋外空間の整備課題を抽出し、その構造を「デザイン認識」・「デザイン思想」・「デザインシステム」・「デザイン技術」・「デザイン評価」の5つに大別した。そして、空間整備課題の構造の枠組みより、現時点での有識者及び実務者の指摘する空間整備課題の特徴について分析を行った。

本研究の成果の有効性として、比較的とらえどころのなかった空間整備課題を構造的に把握することで、空間整備課題の全貌が明らかになり、効果的な空間整備の推進に寄与できるものと考えられる。

[参考文献]

- 窪田陽一：変貌する土木デザイン、『日本の都市デザイン'85～'95』、都市環境デザイン会議編、学芸出版社、p. 18-23、1996年4月
- 中村良夫：これからの土木景観、『細川護熙・中村良夫企画構成：景観づくりを考える』、技報堂出版、p. 1-44、1989年10月1版1刷・1992年2月1版4刷
- 篠原修：土木景観設計の原則、『細川護熙・中村良夫企画構成：景観づくりを考える』、技報堂出版、p. 151-195、1989年10月1版1刷・1992年2月1版4刷
- 鳴海邦碩：都市環境をデザインする、『都市環境デザイン、13人が語る理論と実践』、都市環境デザイン会議関西ブロック、学芸出版社、p. 5-16、1995年1月
- 長島孝一：話題提供「外国人の見た日本の都市」を著者が口頭筆記、都市環境デザイン会議・国際セミナー『外国人の見た関西の都市環境』、大阪、1997年3月
- 公共土木デザイン研究会：第1回公共土木デザイン研究会グループ討議結果報告、徳島大学建設工学科・公共土木デザイン研究会、1995年11月20日
- 土木景観を考える会：1996年第1回土木景観を考える会結果報告書、徳島大学建設工学科・建設システム研究室、1996年10月28日
- 徳島市都市デザイン室：都市デザインコード策定業務調査報告書、参考資料編、平成8年3月
- 浅海義治、伊藤雅春他：『参加のデザイン道具箱』、世田谷まちづくりセンター、p. 10-11、1993年8月